

令和7年度 自己評価結果

認定こども園土崎幼稚園

A：よい B：おおむねよい C：やや不十分（検討を要する） D：不十分（改善を要する）

評価領域	取組状況	評価
1：教育・保育目標について (7 観点評価)	7 観点すべてが肯定的評価 100 %であった。夏休みまでを前期、冬休みまでを後期として年 2 回、自己評価と結果に対する協議を行ってきたことにより、共通理解が進んだ。「笑顔でチャ！チャ！チャ！を合言葉に日頃から重点実践事項に取り組んできた」の項目に 80 %の職員が A と回答している。昨年度と比較すると 7 観点平均が 0.1 ポイント上がり、3.8（4 段階）ポイントとなった。	A
2：教育週数と時間、行事について (6 観点評価)	7 観点すべてが肯定的評価 100 %であった。教育週数 40 週以上を確保し、「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」、「教育・保育課程」に計画していた教育・保育内容を全て実施することができた。また、行事の実施時期や内容等を見直しながら実施方法を工夫してきたことにより、保護者アンケートの結果から行事等が充実していると言える。園内外の行事や保護者参観を全て実施することができた。（昨年度比で平均+ 0.1 ポイント）	A
3：学年・学級経営について (12 観点評価)	12 観点中、11 観点が肯定的評価 100 %であった。「きめ細かい健康観察」と「あいさつや笑顔での保育」については 92 %の職員が A 評価とした。園児数と職員数が増えたことを考慮し、引き続き情報交換の時間をしっかりと確保することにより、子どもの内面や行動の背景にある要因の理解、特別な配慮を要する子どもの「指導計画」や「支援計画」の手立ての具体化に努めていきたい。今後もチームによる少人数教育・保育の充実を図っていく必要がある。（昨年度比で平均± 0 ポイント）	A
4：教育・保育の在り方と保育記録について (10 観点評価)	10 観点中、7 観点が肯定的評価 100 %であった。「子どもの内面を読み取り、園児が主体的にかかわりたくなるような工夫」については、A 評価が 44 %（前年度比+ 12 %）となり、合言葉「笑顔でチャチャチャ」を意識して取り組んでいる職員が増えてきていることが分かる。今後も、子どもたちが自己効力感を味わいながら、自己肯定感を高めていく教育・保育の実践に取り組んでいきたい。 異年齢交流については、肯定的評価が 84 %であったが、満 3 歳・3 歳未満児と 3 歳以上児との交流を意識した計画の見直しと実践の充実を図っていく必要がある。（昨年度比で平均± 0 ポイント）	B ^o
5：組織・運営について (7 観点評価)	3 歳未満児保育のスタートを契機に、0 から 5 歳児までの 6 年間を見通した組織・運営の見直しを図ってきた。今年度は、3 歳以上児担任を対象にしたノン・コンタクトタイム制を実施したことにより、休憩時間や仕事時間の確保につながった。今後は、人件費が支出の 7 割を超えている現状を踏まえつつ、園児数増加に対応した組織・運営について、工夫・改善を続けていく必要がある。（昨年度比で平均- 0.2 ポイント）	B

評価領域	取組状況	評価
6：保健・安全指導と安全管理について (9 観点評価)	<p>今年度も9観点すべてが100%の肯定的評価であった。コロナ禍で経験した手洗いや手指消毒、必要に応じたマスクの着用等の保健指導や常時換気などの感染予防対策により、単一の感染症拡大を防ぐことができた。</p> <p>今年度8月から自園調理による完全給食を実施できたことから、食育の観点からの指導が充実してきている。引き続き実践の充実を図っていききたい。今年度も熊の出没が相次いだが、園バス乗降時の安全対策などを実施することができた。(昨年度比で平均±0ポイント)</p>	A
7：園内外の研究・研修について (6 観点評価)	<p>6観点中、5観点が肯定的評価100%であった。今年度、新たな研究主任のもとで研修を進めたが、研修3箇条「うなずきの気持ち」「言っていていいんだ」「間違いはない」の継続により、教師間の親密度を高め、同僚性を育む園内研修とすることができた。全職員の協力により、2名の10年経過研修をはじめ、園外での研修者を支えることができた。(昨年度比で平均+0.1ポイント)</p>	A
8：幼保小との連携について (4 観点評価)	<p>今年度4観点すべてが100%の肯定的評価となった。土崎小学校と土崎南小学校の統合が来年度となり、両校の子どもや職員との交流を計画的に実施できた。</p> <p>また、北部地区幼保小連絡協議会においてアプローチプログラムとスタートカリキュラムについて話し合う場を設けたことにより、両プログラムの見直しのきっかけとすることができた(昨年度比で平均+0.1ポイント)</p>	B°
9：家庭・地域社会との連携について (7 観点評価)	<p>保護者への「利用者アンケート」では、12項目において100%の肯定的評価であった。また、13項目において「とてもそう思う」が1～9%増え、「入園して満足している」は93%、「誠実な対応をしている」という項目については、94%の保護者が「とてもそう思う」と回答した。また、69名の方から温かい応援メッセージをいただき、15件の意見には園の考えを伝えることができた。このことは保育者が笑顔で日々の連携を積み重ねてきたことによる成果である。</p> <p>市教育研究所や中央教育事務所、県立支援学校、療育センターなどの専門機関との連携を図ってきたことにより、特別な配慮を要する子どもへの支援と就学にむけての相談活動を充実させることができた。</p> <p>子育て支援として行っている園開放では、満3歳・3歳未満児保育を開始したことから利用者が増えたが、温かく落ち着いた雰囲気の中で交流することができた。</p> <p>今年度も地域の方からご寄付いただいた曳山で町内巡行を行ったことにより、子どもたちは地域文化に親しむとともに、地域の方々から支えられていることを実感し、地域を大切に思う心を育てる経験をすることができた。引き続き、地域の人たちと交流する園外活動を行い、地域の方々にも共に子どもを育てていくという意識を醸成していききたい。(昨年度比で平均+0.1ポイント)</p>	A